

## 第4回環境市民講座レポート

## キーワードは『W.E.H.A.B』

7月22日(木)、エルソーラ(アエル28F)で「これからの企業エコロジー & エコノミー」と題して第4回 MELON 環境市民講座が開催されました。講師のペオ・エクベリ氏はスウェーデンの出身でしたが日本語は堪能で、軽快にお話をされていました。

講演の冒頭で、日本とスウェーデンの違う点は「日本は技術の国、スウェーデンは自然の国」であること、似ている点は「森さんや山田さんなど自然から名前がついている」ということをあげ、『ペオ=樫、エクベリ=山だから私を「樫山」さんと呼んでください』と言って場の雰囲気や和ませていました。

お話の内容はスウェーデンの環境問題への取り組み



トウモロコシから作ったウォークマンを  
紹介するペオさん

みの歴史、世界の環境問題の現状から始まって、環境負担による不経済効果の金額算出、CSRやSRIなど経済に絡めて環境問題の重要性を語ってくださいました。W.E.H.A.B\*(水、エネルギー、健康(ゴミ)、農業、生物多様性)の5種類に環境問題は集約されるという言葉には説得力がありました。

一番印象に残った話は「環境問題を考える上で日本は世界に対して影響力を持っている国の1つである」ということでした。やはり今後も自分ができる身の回りの環境問題に対してコツコツ取り組んで、身近な部分から世界をリードしていきたいものです。

MELON 会員 中澤伸一



熱心にメモをとる参加者

\*W.E.H.A.B

Water 水  
Energy エネルギー  
Health 健康(ゴミ)  
Agriculture 農業  
Biodiversity 生物多様性

## ストップ温暖化センターみやぎ「通信」⑩

地域の市民団体と共催でバイオマスエネルギーの学習会を実施

7月8日(木)川崎町公民館3階で100年ビジョンかわさき推進ネットワークとの共催で第3回 MELON 環境市民講座「川崎町で考えるバイオマスエネルギーの可能性」を開催しました。参加者は42名でした。

富樫千之氏(宮城農業短期大学教授)から、バイオマスの説明、ドイツや国内のバイオマスエネルギー利用の事例紹介や川崎町のバイオマス資源の特徴として畜産の割合が高い(肉牛3510頭、乳用牛810頭)、森林面積の割合が高い、などが紹介されました。

講演の後、川崎町の行政担当者や住民を交えて、川崎町でどのようなバイオマス施設が可能かについてディスカッションが行われました。大規模な施設ではなく小規模なものを導入していく方がよいのではないかという意見が出されました。また、主婦向けにもこうした話題をわかりやすく伝える企画が必要だという意見など、活発な意見交換がなされまし



講演の様子